

全國労働組合同盟結成大會

綱領・主張・規約・運動方針草案

全國労働組合同盟運動方針書草案

組立ての概要

- 一、はしがき—本運動方針の眼目に就いて
- 二、世界資本主義の大勢—所謂相対的安定の本質に就いて
- 三、日本資本主義の諸情勢—金融資本の躍進とこれに附随する諸問題

- 四、日本労働組合運動の情勢(その一)—日本労働組合運動の重要性
- 五、日本労働組合運動の情勢(その二)—日本労働組合の最近の傾向とその批判

- 六、我等の同盟体の地位と使命—合同の意義及び現段階に即する大衆的闘争組織に就いて

- 七、我等の同盟体の當面の諸運動とその方針

- 一、組織運動の方針
- 二、教育運動の方針
- 三、争議闘争の方針
- 四、調査に關する方針
- 五、政治運動の方針
- 六、國際的諸運動に關する方針
- 八、時局問題に對する新同盟の闘争方針

- 一、産業合理化反對運動
- 二、失業反對運動
- 三、労働立法獲得運動
- 四、労働組合戦線統一運動
- 五、農民運動との提携
- 九、結論—將來に對する若干の展望

一、はしがき

昭和五年六月一日日本労働組合同盟と労働組合全國同盟の合同を中軸とし、之に合流する北海労働組合其他の地方的團體を加へて、茲に新たなる全國的團體たる「全國労働組合同盟」は結成された。

我等の同盟體の戦線は全日本に於ける一道三府十六縣に亘り、その組織網は金屬、機械器具製造、紡織製糸、電氣瓦斯、運輸交通、通信、鑛業、土木建築、化學、木材、其他雜種工業の全生産工場、鑛山及び荷頭の職場に擴大し、全日本の労働階級の生活と闘争のある所、そこには我等の戦闘旗は労働大衆の頭上高く掲げられたのだ。

由來、日本労働組合同盟と労働組合全國同盟の同盟體は嘗ては日本労働組合同盟の主動的部分を占め、その果敢なる闘争は過去の總同盟をしてよくその戰闘的傳統を保持しめ永く日本労働運動の中堅たらしめた。其後總同盟官僚幹部の急進なる階級的墮落、と之に伴ふ不可避なる分裂の過程に於て

總同盟の主動的部分は、日本労働組合同盟及び労働組合全國同盟を結成し、以て過去の戰闘的傳統を保持し、着々新勢力を糾合して最も有効なる闘争を遂行し來つた。また、今次の戦線せる北海労働組合其他の地方的團體の何れも、分散せる我國労働組合戦線の一部隊と方々に於ける大衆的闘争を指導し、同時に、左右兩翼の分裂主義を排して一黨國內労働組合のために努力し來つた。故に我等の「全國労働組合同盟」の結成は、從來の行詰れる我國戦線の統一運動に對して現實に一歩前進の効果を挙げ將來に於ける労働組合の全合同への拍撃を努めると同時に、この新同盟體の出現自體が既に闘争力の飛躍的な擴大強化を意味する。されば我等の新同盟體の將に展開せんとする闘争は、いよいよ激化し行く資本の最も重要性を有するものである。

よつて我等は茲に闘争の第一歩を踏み出すに當り、我等の過去の闘争の嚴正なる批判との適確なる認識に立脚し、而して労働大衆の生長性に即しつゝ之を階級的に指導し訓練し大衆の日常利害を代表する戰闘的團體たる本分を發揮するために我等の運動方針を固くものである。

二、世界資本主義の大勢

所謂「相対的安定」の本質に就て

二十世紀に入りて加速度的に成長し來れる世界資本主義は歐洲大戰によつてその内的矛盾暴露した。即ち、各資本主義國內に於ける勞資の階級對立の激化、各植民地に於ける被抑壓抗運動の尖鋭化、各資本主義國家間に於ける對立の尖鋭化を、主たる要因とする矛盾の爆發的表現としての世界大戰であつた。だが世界大戰は資本主義の内的矛盾を解決しなかつた。資本主義はこの大戰を契機として益々その矛盾を擴大し、世界的不安と動搖の淵を開き、所謂相対的安定の新しい段階に這入つた。

大戰によつてその巨大なる生産力を破壊されて瀕死の狀態に陥れる世界資本主義は、大い恐慌の襲來とロシア革命を尖端とする世界革命運動の援頭によつてその根柢を揺がされた。ブルジョア階級は必死の努力を以て無産階級解放運動及び植民地民族運動に對して白色恐怖彈壓を加へ、同時に無産階級の犠牲による産業合理化の強行によつて破壊された生産力の擴大に成功し、幸うじて一時的安定を克ち得た。かくて彼等世界ブルジョア階級は今やこの二を永續化せんとして、國內的に或は國際的に、凡ゆる努力を試みつゝなる。即ち、國內的にの反動政策の兇暴性を蔽ふに自由主義の假面を持ち來り、實質的に産業合理化の最後の仕上げとせんとする如き、また、國際的には、世界資本主義の統制乃至は組織化を試み國際的協調の近に於ける英國労働黨内閣の出現、美國フーバーの執政、我國に於ける濱口内閣の出現等に據れる一聯の國內政局の推移、更にまた、ヤング賠償案、軍備縮小會議の一時的成功、ブリアン・ロップ聯盟の提唱等に見られる國際協調の氣運、これらは一時的安定の一般的傾向を暗示するものである。

然しこの安定の過程は同時に世界資本主義に内在する矛盾を更に擴大し激化せしめる。過程世界ブルジョア階級の努力は、この一時的安定を永續化する代りに、舊い矛盾の上に新しい矛盾を重ね、世界資本主義を新たな危機に導きつゝある。何となれば、生産力の擴大、巨大なる資積は必然的にブルジョア階級を驅つて商品市場と投資市場の獲得のための闘争に狂奔せしめ、世界競争の危機を醸成すると共に、各國無産階級及び植民地民族は極度の搾取と弾壓に堪へざる闘争に邁進するからである。

二、戦後第二期の諸傾向